

## (2) 東北



東北地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善に足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

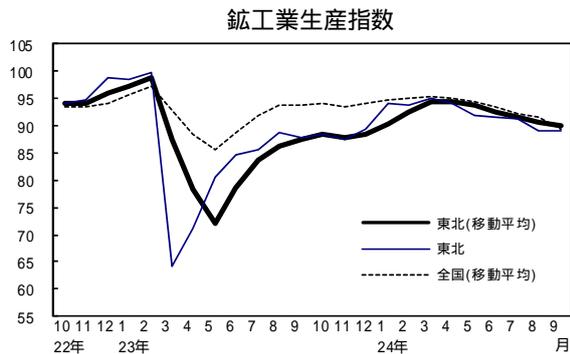
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 8 月)	今回 (平成 24 年 11 月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
個人消費	緩やかに増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、改善	改善に足踏み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの複合部品等が生産増となったこと等から増加した。食料品・たばこは、水産加工食品等が増加に寄与し、増加した。一般機械は、世界経済の停滞や半導体需要の低迷等により半導体製造装置等が低調だったこと等から減少した。情報通信機械は、ノート型パソコン等の需要低迷により減少した。化学は、医薬品が低下に寄与したこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	17.9	10.9	1.9	1.0	4.3
食料品・たばこ	11.8	1.1	0.1	0.7	2.4
一般機械	10.1	3.6	11.0	9.0	8.4
情報通信機械	9.6	10.4	8.4	9.7	21.5
化学	7.0	9.9	3.5	1.3	4.6
鉱工業	100.0	1.9	2.8	2.8	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

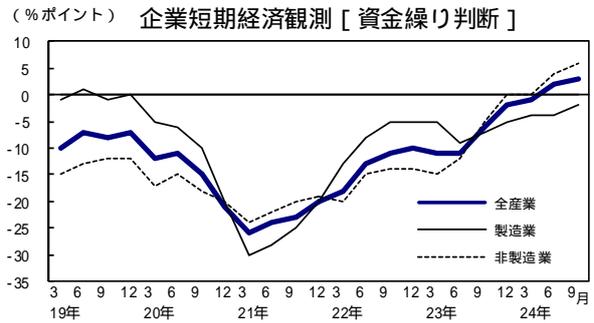
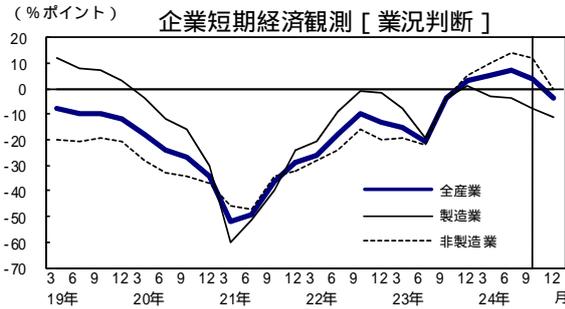
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

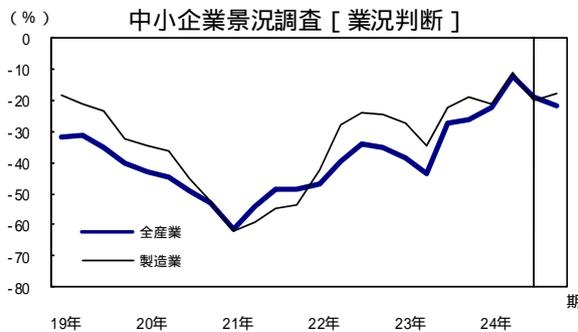
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小しており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

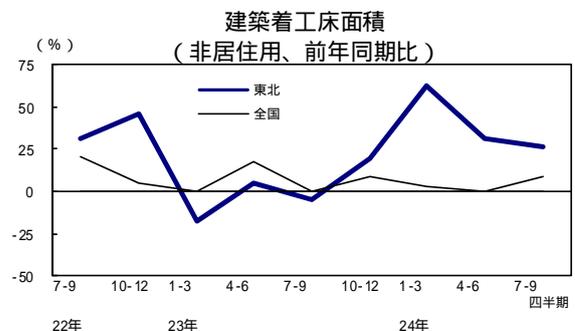
「公共の改修工事が出てきている。また、民間のリフォーム工事は1件当たりの金額は少ないが、件数が多くなってきている(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	3.1	22.5(1.6)
製造業	2.7	30.1(1.7)
非製造業	13.9	11.3(7.8)

(備考) ( )は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

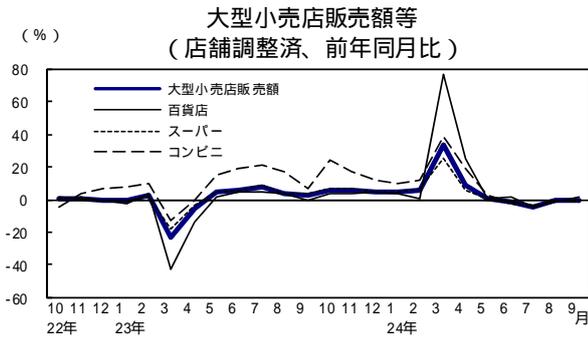
大型小売店販売額は、前年同期比で1.9%減、前期比で0.4%増となった。

百貨店は、7月が主力の衣料品でクリアランスセール時期が各店舗で異なり盛り上がりを欠いたこと等から前年を下回った。8月は、夏物衣料が好調だったものの、家庭用品で震災からの買換え需要が一巡したこと等から前年を下回った。9月は、残暑の影響により秋物衣料が不振だったものの、夏物衣料が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、夏物、秋物衣料が不振だったことや、家庭用品で昨年の復興需要の反動があったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「紅葉シーズンも到来し、震災前の来客数までほぼ回復している。しかし、客単価は若干下がっているの、まだ本格的な回復に至っているとはいえない(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	5.4	12.8	2.2	1.9
百貨店(*1)	4.2	20.6	8.3	1.9
スーパー(*1)	5.8	11.1	1.0	1.8
大型小売店(*2)	3.8	12.3	4.9	0.1
(季節調整値)(*3)	(0.7)	(1.2)	(0.5)	(0.4)
乗用車(*4)	35.6	71.9	49.7	13.1
(季節調整値)(*4)	(3.0)	(10.9)	(6.0)	(6.1)

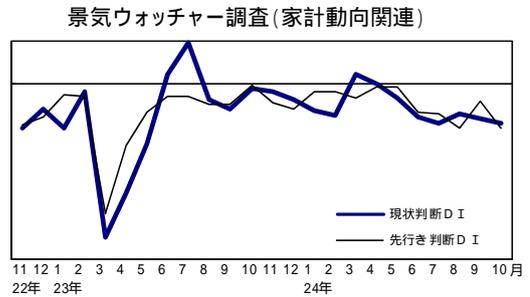
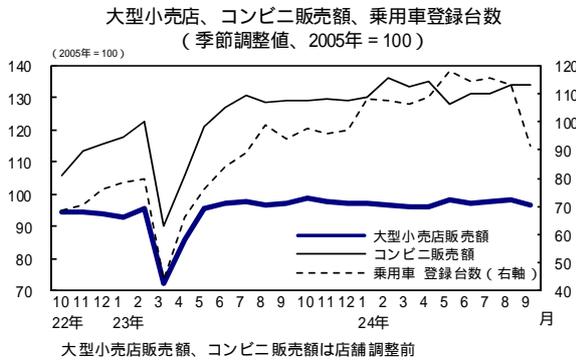
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

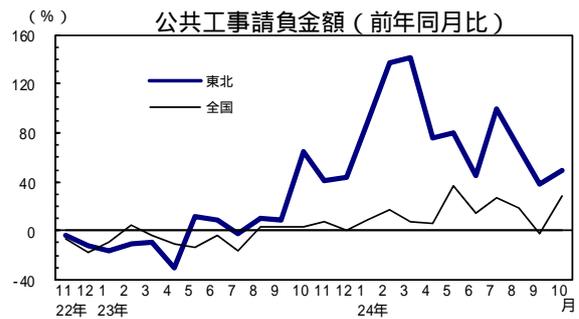
(上段: 前年同期比、下段: 前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

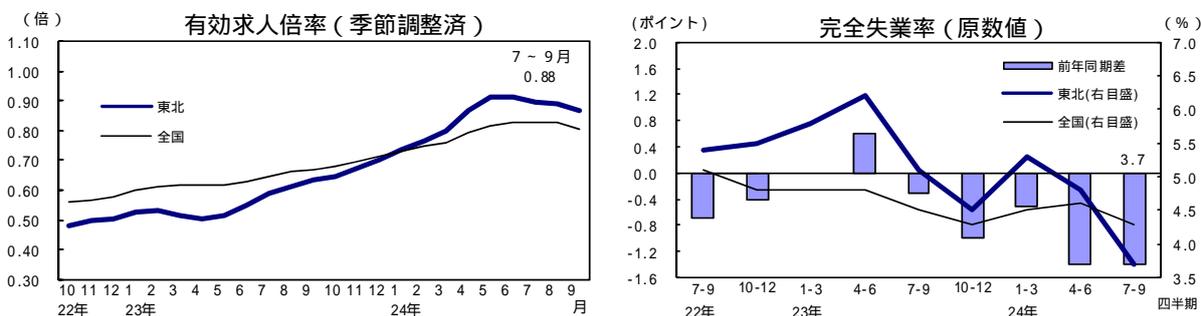


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善に足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考)23年1-3月期から7-9月期の数値は補完推計値であり、23年1-3月期から7-9月期及び24年の各期の前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

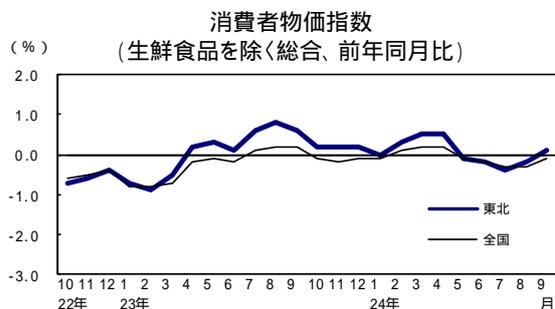
「求人数は増加しているものの非正規求人が多く、内容的には正社員を採用できる状況まで事業所の業況は回復していない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	121	125	123	117	50
(前年比)	37.6	20.4	21.2	26.9	11.1
負債総額	543	467	408	582	120
(前年比)	7.0	19.5	19.5	21.4	33.2



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・10月は秋の旅行シーズンに入るが、例年より旅行者が非常に少ないようである。中国人、韓国人の旅行者はほとんどいない。これは日中問題が災いしているのではないか(一般小売店[医薬品])

<先行き>

・今、現場サイドではコンクリートが入ってこない状況が続いているようである。それに人手不足も重なって新築等の着工時期が確定できず、設計のほうにも影響が出てくるのではないか(設計事務所)

